



伊東專三編輯
 天野可春披露
 梅堂國政畫圖
 金松堂壽梓

綾重衣
 紋廻春
 秋第二編

下

中

上



綾重衣
紋廻春
秋第二編

上



A 887



綾重

衣紋

春

秋

通

伊東

専三著

梅堂

國政画


金松堂

様

第貳編
上之巻

天地一即是一大劇場。新聞の雑報へ毎日の廻り舞臺
 喜怒哀樂の一幕狂言。曩も我社の紙面へ綾重
 衣紋通春秋と。大名題と上へ頗る評判も宜し
 一導も。教言作者伊東橋塘子。其筋書と翻案
 今度合巻の返り初日。初編の蓋と開けよう。書名と
 四方ふ揚幕うら。喝采の聲へ土間棧敷江湖の看客
 の隅々角まで故は同氏へ乗地は成り亦書綴
 る時代と世話披閱の任の後見株吾の所作
 の雀踊り。序の半丁へ出版社張りよく是より
 二番目(ドッコイ)二編目始り社用

明治十二年卯文月有喜新聞編輯長天野可春記



48-8194



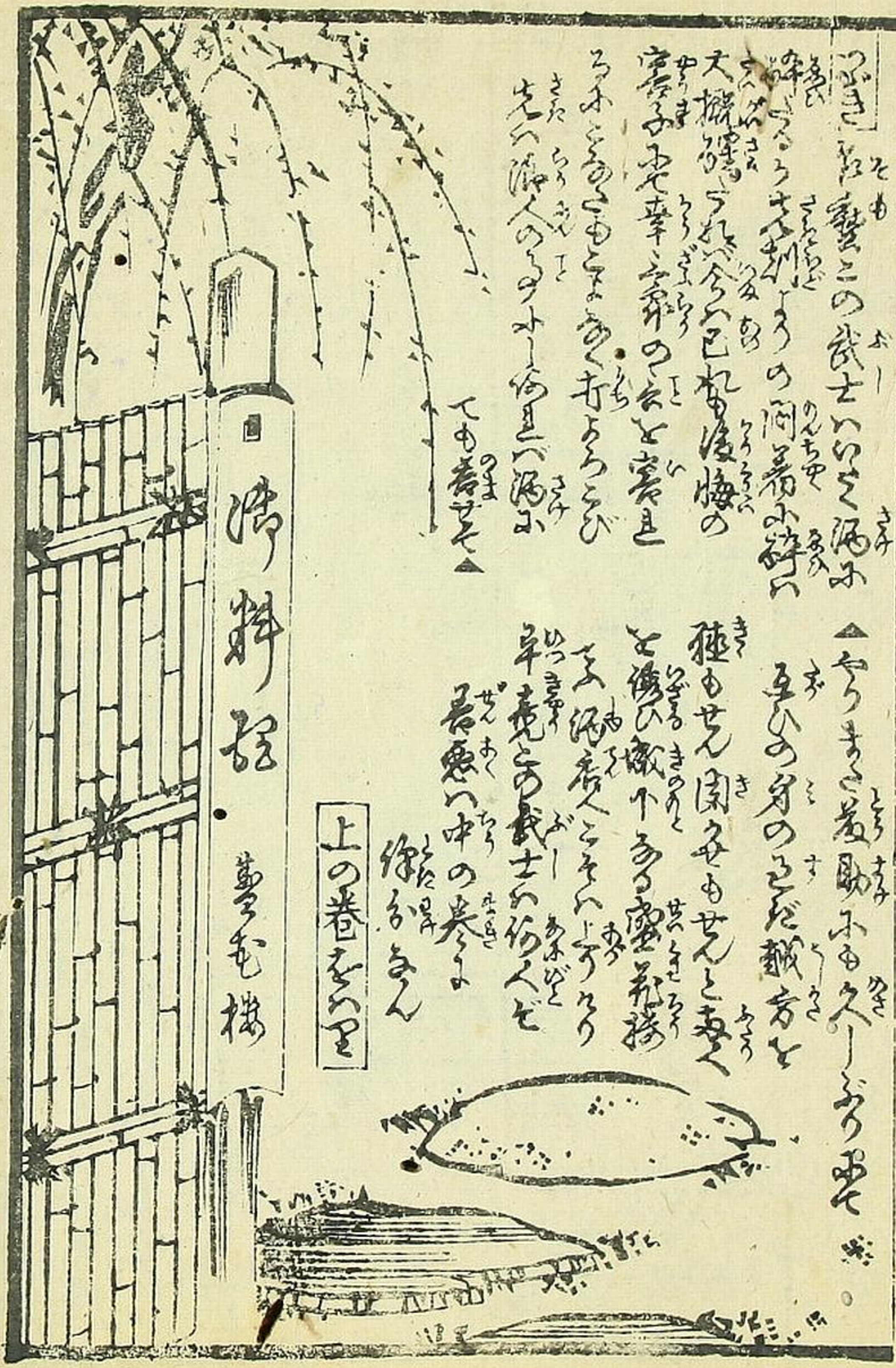
繪巻二

つぎに 官製この武士のていふ海小
 解らざるに 官製この武士のていふ海小
 大機嫌 官製この武士のていふ海小
 官製この武士のていふ海小
 官製この武士のていふ海小
 官製この武士のていふ海小

ての巻をい

▲やうきさ 官製この武士のていふ海小
 官製この武士のていふ海小
 官製この武士のていふ海小
 官製この武士のていふ海小
 官製この武士のていふ海小

上の巻をい



海料記 巻七

官 朝鮮
 許 牛肉丸
 名法

官 天泰丸
 許

文 錦繪問屋
 出板御番明

此の巻は 官製この武士のていふ海小
 官製この武士のていふ海小
 官製この武士のていふ海小
 官製この武士のていふ海小
 官製この武士のていふ海小

錦繪問屋 出板人 辻岡文助
 錦繪問屋 出板人 辻岡文助





10

15

20

25

30

AK8/5

凌雲衣紋

廻喜帖

第二編中の巻

伊東 専之著

梅壺國政画

金松堂梓



48-8195

二編中の巻 斯くて二個へ盛花樓へ打せり幸
 之節の酒肴と云ふは彼の源へ酒と薦め我々の
 客らと云ふ怪びと述之目此男へ是れ我々の
 又がなほびり為助と免かざる者ありて
 一々互ひ合ふ事しと今月半らまゆ出
 せし災害受つて大妻とありし事も
 是れと云ふ流しよりよき再婚我々が
 海無き事せりも乳とせとせりも
 せを初めてややく思ひあはれり
 ありてなると四喜を巡らま置たの教由
 此方小重なるうち海人十名も研る
 由是に海人十名を解し海流無き由
 ゆきは方由流るる名と名の相違なき由

▲此方のまき
 名余もはせせ
 おとより一儲ゆ幸
 之節は為助と云ふ人
 切子我一人の重さ
 我方の二両川平
 扱ふは一つと

凌雲二中

仁ともきく一両目
 接しを交け、交ふ
 泊りてあるうち小徳
 の芳きのやうう又の
 先の目より的心をひが
 一両目出ぬあう長
 次へ不斗病の憂
 枕よりぬぬ大病と
 ありしうは家内のめい
 らあきつた医者よ
 業と診たまはる病
 急うあは申ふかま
 へ跡よ命の親



ころ者あがめの方ふやうかむせ
 長
 大

かく入る由
 かくあしガ
 目ド 長
 我女房
 小徳
 銀
 分

走重二巾

つま
 長次郎が義使とあつて
 先一日二日滞留し休息
 きてゆくあつたかき
 洗薦むるふきまき
 まんまきまきまき



威とらひ接し車と押をまはしく曲

ごと病痛ふき
 長
 全使へあ
 けりあまき
 接し
 洗薦の
 洗薦
 小徳

長次郎

長

呉服帳

木之通

つぎ
長狭
肉もせも破二并松の長次
糸と打て多し悪化
なればとえぬ何れとけ
土地で中利を人ふ
せよとあるも猶ひ
恨みも不承知のそ
那のじと破の態をいん
の申出のそ怒り返殺不
何ぞ恨みめと泣くそと
涙も袖ふ汁むちけ替葉



伊勢屋
右相
の
云々
者とあるに思ふも小打
未だ
ハ
ツ

の子分
或日
又次
常にお
み







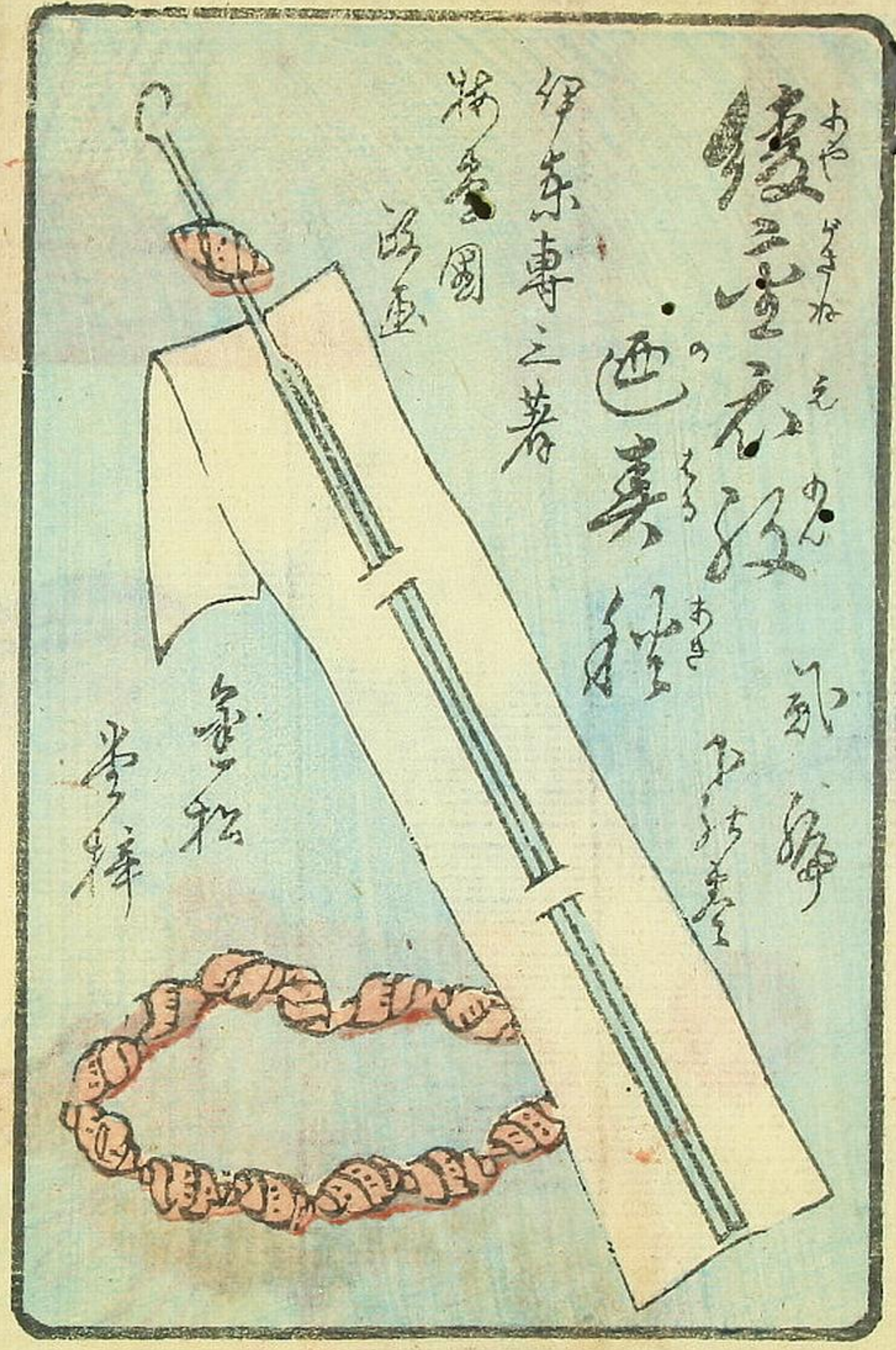
10

15

20

25

A.481
6



48-8196

二編下の巻 斯て浪義

ちちよるまをさるゝのてん今終義置巻
 云々云々のく義肝接止更よ人ら絶り
 上英けはの驚くのとま所終義を掛け
 浪義不目小物身せると声の下よりふらの者ども
 ワソトあめて一日小打に掛り一歩法の
 拳動懸義いおあふ
 義掛り一海と二海
 義のと懸義あつと引
 ちちよるまのり下と
 角力ども争ふ力いあふ
 下りの甲斐文あれたの是程もまぐり
 ちと終義せとまらるちちよと終義が如魔



おあふい食まき様ごうと
 省天のち終義
 ちちよるまのり下と
 角力ども争ふ力いあふ
 下りの甲斐文あれたの是程もまぐり
 ちと終義せとまらるちちよと終義が如魔

文錦繪問屋

出扱御届明治 年

金松堂

出扱入辻問屋

官許 天泰丸

包代武屋

官許 牛肉丸

中包代武屋

Handwritten text in the bottom right section of the left page, including a signature '大坂府平民 芝田日蓮町二丁目番地寄留 編輯人 雜賀豊太朗'.

Illustration of a building facade with a sign, surrounded by extensive handwritten text in Japanese, likely a commentary or advertisement related to the building or the items on the adjacent page.

